



# やぐもだい

令和7年4月30日  
調布市立八雲台小学校  
校長 石川 淳  
<http://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>



## 「自分のよさ」

校長 石川 淳

日本芸能の一つで、台詞や歌舞からなる劇「能」を創り上げた世阿弥が、人を育てる三つの条件の第一に挙げている「自分のよさをわからせる」という教えがあります。「よさ」とは、その人がもっている得意なところや集団の中で生活していく好ましい資質や態度をいいます。

「よさ」は成長するごとに変わっていきます。前面に出てくる部分や、鳴りを潜めてしまう部分もあります。1年生の時に、近くにいた友達に少しおされて涙ぐんでいた子が、6年生になった頃、全校をリードする役割を担っていることがあります。また、ひとつのきっかけで急に変わる場合もあります。人前に出ることがほとんどなかった子が、代表の言葉を言ったことで他のことにも積極的になることもあります。

さらに、その子にかかわる大人が違えばその子の「よさ」のとらえどころも違うことがあります。「集中が続かない」ととらえられていたことは、「次々に興味をもって幅広く取り組む」ととらえることもできます。円柱の形は、上から眺めれば円で、角のない柔らかな形ですが、横から見ると四角形で、直線と角からなる堅い形です。

子どもは変容の幅が大きく、また年齢が上がれば場面ごとに「その世界での顔」を身につけていきます。社会性を広げている証です。ですから家庭と学校その他の場所では全く異なる面が見えるのも自然なことと言えます。親御さんは教職員やその子にかかわる人と話す中で、その子のよさをとらえ直すことができたなら、言葉にして伝え、価値づけてあげてください。小学校の時代に、「自分のよさ」に気付かせることが、人格形成でとても大切なことと思います。

ちなみに、世阿弥の人を育てる三つの条件の第二は「人前で恥をかかせない」第三は「100%を求めない」だそうです。

### コミュニティスクールについて

八雲台小学校では令和7年度からコミュニティスクール（学校運営協議会を設置した学校）が始まります。

コミュニティスクールとは、地域を生かし、地域とともに歩む教育のことです。

1 学校への参画 2 組織的・持続的な体制の構築

3 役割分担の確立 を柱として取り組んでいきます。

第二回のコミュニティスクールが、4月26日（土）

調布市防災教育の日に行われました。

委員になっていただいた4名の方と、引き取り訓練と地域の防災対策について検討しました。

